

戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

戦略
企画
会議

第二委員会「国際化・研究」活動全般における定期報告

第二委員会「国際化・研究」活動全般における定期報告

日本眼科学会(日眼)戦略企画会議第四期は2018年1月1日から活動をしており、3年が経過して後半となりました。ちょうど中間のところで、コロナ禍に見舞われ、いくつかの活動は足踏みしたようにみえましたが、秋ごろからは、withコロナを踏まえての、オンラインでの活動を活性化しようとしているところです。日眼会誌、JJOの投稿数は増加し、第124回日眼総会(2020年)、第74回日本臨床眼科学会(臨眼)(2020年)のWeb開催においてどちらも1万人以上の参加登録者があるなど、いろいろな形で新しい状況が見えてきています。ここでは、第二委員会の行動計画の中からこの半期に動きのあったものについて報告します。

まず、活動目標として掲げている「若手研究者の増加と研究環境整備」、「日本発眼科研究の国際的認知度の向上」のため、現状把握として、基幹研修施設へアンケート調査を昨年に実施させていただきました。基幹研修施設103施設中、100施設(有効データ提供施設数)からご回答いただき、97%もの高回答率を得ることができました。ご協力いただきました各施設には、お忙しい中ありがとうございました。回答結果は公表しないことが条件でこのアンケート調査を行いましたので、回答をいただいた各施設には、個別に結果を報告させていただきましたが、お尋ねした主な項目は、以下のような内容でした。①専攻医の学会発表と論文文化の現状の把握、②基幹研修施設での勤務体制(研究時間)と研究環境・財源の把握、③国際学会への参加と国際学会メンバーとしての活動の現状把握、④国際論文数の推移の検証。全国の施設における順位などが記載されているため、ご自身の施設の立ち位置をよく理解していただき今後の活動の参考にしていただければと思います。具体的には、全体の指標(①眼科医数に関連する指標の分布、②学術活動指標、③手術活動指標)と、各施設の全体における順位表(①医師数指標、②学術活動指標、③専攻医学術活動指標、④研究費獲得指標、⑤手術件数)です。今後アンケートには改良を加えつつ、2、3年毎をめぐりに定期的に続けていくことにしております。

次に、若手眼科臨床医のリサーチマインドの育成を

目的に、新家 眞名誉会員にご自身の研究や活動の歴史についてインタビューを行い(聞き手：大阪大学 三木篤也先生)、日眼会誌第123巻(2019年)11号に掲載しました。今回は、新型コロナウイルス感染症の流行の観点から、感染症関連の専門家である大橋裕一名誉会員へのインタビューを検討しています。インタビュー時期は感染の収束を見計って進めていく予定です。

日眼総会のシンポジウム、教育セミナー、スキルトランスファーなどの企画としては、日眼総集会プログラム委員会と協力して行っており、第124回日眼総会(2020年)では、基礎研究セミナー「他分野の基礎研究から学ぶ最先端研究」をWeb開催いたしました。

第125回日眼総会(2021年)では、以下の、基礎研究セミナー、眼科基礎研究スキルトランスファー、Young Ophthalmologists(YO)プログラムの3つを企画しています。

「基礎研究セミナー：ポストゲノム時代の基礎研究新展開」

オーガナイザー：寺崎 浩子、中澤 徹

1) 環境応答するエピゲノム制御と表現型バリエーション

演者：中尾 光善(熊本大・発生医学研)

2) 酸素と硫黄のバイオミメティクスー活性酸素それは活性硫黄だった！

演者：赤池 孝章(東北大・環境医学)

3) オートファジー、その選択性を介した生理機能の拡がり

演者：小松 雅明(順天大・生理学)

「スキルトランスファー：眼科基礎研究スキルトランスファー：対象疾患に応じた基本戦術とスキルを身につけよう」

オーガナイザー：中村 誠、池田 康博

1) 近視の基礎研究をはじめのために：疾患モデルの特徴と治療効果判定法

演者：吉田 武史(医科歯科大)

2) 緑内障基礎研究の進め方：iPS細胞の応用

演者：横井 匡(国立成育医療研究センター)

表 JOS International Young Investigator Award 受賞者一覧(敬称略)

2018 Award Winner 2 名
Chan, Tommy Chung Yan, M. D.(The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong)
Muhammad Bayu Sasongko, M. D.(Universitas Gadjah Mada, Indonesia)
2019 Award Winner 5 名
Evelyn Tai Li Min (Universiti Sains Malaysia, Malaysia)
Kelvin Ho-Nam Wan (Chinese University of Hong Kong, Tuen Mun Hospital, Hong Kong)
Ranju Kharel (Tribhuvan University, Nepal)
Voraporn Chaikitmongkol (Chiang Mai University, Thailand)
Xiaoning Yu (Zhejiang University, China)
2020 Award Winner 4 名
Anadi Khatri KC (Birat Ankha Aaspatal, Nepal)
NG, Lap Ki Alex (The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong)
Puspha Raman (University Malay Medical Centre, Malaysia)
Stephanie, Hsiao-Sang Chu (National Taiwan University Hospital, Taiwan)

3) 網膜硝子体疾患研究の進め方：硝子体サンプルの解析と病態解明

演者：兼子 裕規(名古屋大)

4) 網膜基礎研究の進め方：PVR を科学する

演者：石川桂二郎(九州大)

「教育セミナー：YO プログラム：若手眼科医のための教育セミナー」

オーガナイザー：柳 靖雄, 吉田 茂生

1) Observational Studies on Outcomes of Treatment of nAMD in “REAL WORLD” Practice

演者：Mark Gilles (University of Sydney)

2) Smartphone Fundus Photography

演者：Shizuo Mukai (Massachusetts Eye and Ear)

3) 眼科×疫学×AI = ?

演者：川崎 良(大阪大)

4) クリニシャンサイエンティストを目指そう

演者：春田 雅俊(久留米大)

コロナ禍の中、この第二委員会がめざす「日眼の国際化」については、かなりブレーキがかかっている状態ではありますが、冒頭に述べたように、海外での活発な Web での活動に参加しつつ、また、日眼での企画においてむしろ、Web において海外の演者を招聘しやすくなっていることも考えられ、これまで以上に国際交流を進めていければと思っております。

それには、まず、第二委員会の重要な企画となるのが、アジアの優れた研究者を日眼総会に招聘して交流を深める、JOS International Young Investigator Award の事業です。ところが、第 124 回日眼総会(2020 年)では The International Crosstalk Symposium by Young Ophthalmologists を開催する予定でしたが中止にせざるを得なかったため、講演予定であった JOS International Young Investigator Award 2019



図 日本眼科学会ホームページの会員専用ページ。

受賞者(5名)には渡航・宿泊費を含めた10万円は支払わず賞状を贈ることとしました。現在、第125回日眼総会(2021年)に招聘予定の4名を選出しましたが(応募者5名)、学会開催方法により招聘できるかを決めています。今後このような状況が続けば、賞状を送るだけではなく Web での発表と旅費ではなく講演料等での可能性も含めて募集をしなくてはならないかもしれません。表に、これまでの受賞者を掲示します。

最後に、会員の皆様には、楽しく臨床を学べる ONE® Network への参加ももう一度呼びかけたいと思います。まだメールアドレスを ONE® Network に登録し

ていない方は，引き続き日眼ホームページの会員専用ページのバナーからの登録をお願いいたします(図)．日眼ではこの教育プログラムに対して年間使用料を

払っていますので，より多くの先生に利用をしていただきたいと思っています．登録で不明な点は日眼事務局にお問い合わせください．

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会「国際化・研究」

寺崎 浩子(委員長，文責)，相原 一(副委員長)，小椋祐一郎(副委員長)
高橋 政代(副委員長)，池田 康博，石田 晋，臼井 智彦，岡田アナベルあやめ
川崎 良，榛村 重人，辻川 元一，中澤 徹，中村 誠